

レモコネクタの嵌合性について

レモコネクタは、スイス時計製作で培った精密切削加工技術を用いて製造し、価格を抑える為にモジュール方式を採用している為、他社製コネクタに比べて、バラエティに富んだ色々仕様のコネクタ提供、小型化・高密度化が可能なコネクタです。それ故にコネクタを構成している部品には、組立て、組換えの作業に適した一定の寸法公差を設け管理している理由で、公差および公差のバラツキが嵌合性に影響を与える場合があります。加えて、コネクタ内部での芯線の納め方、ケーブル被覆の材質・厚み・柔軟性にあった固定方法なども影響する場合がございます。

この様な公差及び公差のバラツキにより、万が一嵌合性に支障が生じた場合には、

- ① 嵌合の為に無理な力を加えない。軸方向にまっすぐ挿入する。
- ② 丁寧な取扱いとコネクタ軸に平行した丁寧な嵌合を行う。
(特に小型・高密度のコネクタ、クリンプピン採用のコネクタの場合)
- ③ 嵌合面を目視し、異物や異常がないことを確認する。
- ④ コンタクトピンの状態の観察と必要な修正を行う。
- ⑤ バックナットを一度緩めて再度締めなおす。

等により、支障は改善されます。

世界で様々なメーカー様がレモコネクタを採用し、いろいろな施工方法、施工精度、品質で市場に出回り、色々なパターンで接続がされております。その様な状況下において数百、数千個の中で、稀に嵌合がうまくいかないことが発生する場合がございます。原因については上記記載以外に、経年による緩み、劣化、他いろいろな要因が考察されま

す。

この種の嵌合性の不都合に対しての当社の考え方、処置の方針は、以下の通りです。

- ① すべてのものの 100%嵌合実現には、その状況毎に応じた微調整が必要。
- ② 対策は、原則施工の工夫と微調整で対処する。
(原則、全ての施工は使用環境とお客様要望に基づくもので、嵌合不良発生の可能性もお客様の要望の中で調整し、施工の中で必要な工夫と改善をすべきもの)
- ③ コネクタ品質の問題とは一切リンクさせない。(品質不良ではない。)

もちろんのことではございますが、レモコネクタをお使いいただくお客様、施工業者様には、我々の経験に基づいたできる限りの施工アドバイス、よい嵌合実現へのアドバイスを実施してまいります。

以上